

2012 年度 地域・産業保健コース試験(2013.2.08) 再現問題

※ 問題(解答用紙も兼ねる)は各分野 A4 紙 1 枚ずつ。

産業衛生学分野(以下の 2 問について、この用紙の余白および裏面に解答すること)

- 問 1. A 医師は、最近産業医の資格を取得し、社員数が 1100 人で、会社設備が旧式の B 印刷会社の専属産業医に就任しました。A 医師になったつもりで、この会社の職場巡視の要点を具体的に答えなさい。また、巡視時の服装の留意点についても記しなさい(70 点)
- 問 2. A 医師は、B 印刷会社の産業医業務をこなすなかで、もっぱら患者を対象としている臨床医がうけるストレスと産業医自身がうけるストレスは、かなり違うことに気づきました。この会社には、ベテラン保健師も勤務しています。臨床医と産業医のうけるストレスの相違について答えなさい。(30 点)

スポーツ医科学分野(以下の問について、この用紙の余白および裏面に解答すること)

- 問. 生活習慣病に対して運動療法を行うときに注意しなければならないことを糖尿病を症例として記述し、それぞれの項目についてわかりやすく説明してください。

疫学・予防医学分野(以下の 3 問について、この用紙の余白および裏面に解答すること)

- 問 1. エストロゲン服用が子宮内膜がんを発生させるという仮説のもとでケース・コントロール研究を行う。ケースとコントロールはどのような集団から選ぶか述べなさい。また、その選択にあたり、エストロゲンの服用によって vaginal bleeding を起こし易いことがわかっているため、このことを考慮しなさい。
- 問 2. 屋外で過ごす(日光を浴びる)時間が長いと乳がんになりにくいという仮説がある。この仮説を調べるための分析疫学的デザインについて述べなさい。特に曝露因子の把握方法について記述に含めなさい。また、デザインに即して、バイアスが生じやすいと考えられる点を具体的に述べなさい。
- 問 3. 米国の糖尿病患者に比べ日本の糖尿病患者は肥満度が低いことがわかっている。糖尿病のリスク要因の一つとして肥満が挙げられるから、日本人は米国人より肥満度が低くても糖尿病になり易いと考えた。この考えについて考察しなさい。